

メロン(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	べ と 病	疫 病	菌 核 病	陥 没 病	黒 点 根 腐 病	炭 疽 病	苗 立 枯 病	つ る 枯 病	う ど ん こ 病	果 実 汚 斑 細 菌 病	斑 点 細 菌 病
ドイツボルドーA水	M1		-	-											◎
タチガレン液	32		*c	1							Ⓟ				
トップジンM水㊟	1		1	3			◎	◎				◎			
トップジンMペースト ㊟	1		*a	1								◎			
ベンレート水㊟	1		1	3			◎								
アフエットFL	7		1	3								◎	◎		
カンタスDF	7		1	3			◎								
ケンジャFL	7		1	3								◎	◎		
バレード20FL*1	7		1	3			◎					◎	◎		
アミスター20FL	11		1	4	◎							◎	◎		
スクレアFL	11		1	3			◎			◎					
ストロビーFL	11		1	3	◎							◎	◎		
ライメイFL	21		1	4	◎										
ランマンFL	21		1	4	◎										
フルピカFL	9		1	4									◎		
セイビアーFL20	12		1	3			◎								
リゾレックス水	14		*d	1				◎							
			*e	1				◎							
サプロール乳	3		1	6									◎		
スミレックス水	2		1	3			◎								
ロブラール水	2		1	4			◎					◎			
スコア顆水	3		1	3								◎	◎		
トリフミン水	3		1	5								◎	◎		
マネージDF	3		1	4								◎	◎		
ポリオキシンAL溶	19		1	5								◎	◎		
アイーナ20FL	52		1	3			◎			◎		◎			
アリエッティ水	P7		1	3	◎										
ビシロックFL	U17		1	3	◎										
キノンドー水40	M1		10	5	◎					◎				◎	◎
サンヨール乳	M1		1	4									◎		
ドキリンFL	M1		10	5								◎		◎	
ジマンダイセン水	M3		7	5	◎	◎				◎		◎			◎
ベンコゼブFL	M3		7	5	◎					◎		◎			
オーソサイド水80	M4		*b								◎				
			*f	5							◎				
				14	◎					◎		◎			

メ
ロ
ン

メロン(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	べ と 病	疫 病	菌 核 病	陥 没 病	黒 点 根 腐 病	炭 疽 病	苗 立 枯 病	つ る 枯 病	う ど ん こ 病	果 実 汚 斑 細 菌 病	斑 点 細 菌 病
ダコニール1000FL	M5		3	5	⊙							⊙	⊙		
パルミノFL	M10		3	10									⊙		
モレスタン水	M10		3	10									⊙		
リドミルゴールドMZ 顆水	4・M3		7	3	⊙										
フォリオゴールドFL	4・M5		3	3	⊙							⊙	⊙		
ピカットFL	7・9		1	3								⊙	⊙		
パレードプラスFL	7・M5		3	3	⊙		⊙					⊙			
ベジセイバーFL	7・M5		3	3	⊙							⊙	⊙		
アミスターオブティFL	11・M5		3	4	⊙		⊙					⊙	⊙		
ファンベル顆水	11・M7		1	5			⊙					⊙	⊙		
ホライズンDF	11・27		1	3	⊙										
ドーシャスFL	21・M5		3	4	⊙							⊙	⊙		
ショウチノスケFL	9・U13		1	2									⊙		
カスミンボルドー水	24・M1		3	5									⊙	⊙	⊙
パンチョTF顆水	3・U6		1	2									⊙		
テーク水	3・M3		7	5	⊙							⊙	⊙		
ダイアメリットDF	19・M7		1	5								⊙	⊙		
ベトファイター顆水	40・27		3	3	⊙										
フェスティバルC水	40・M1		1	3	⊙										
カンパネラ水	40・M3		7	5	⊙										
ベネセット水	40・M3		7	5	⊙										
カーニバル水	40・M5		3	3	⊙							⊙	⊙		
プロポーズ顆水	40・M5		3	5	⊙							⊙			
カーゼートPZ水	27・M3		7	3	⊙										
ブリザード水	27・M5		3	3	⊙										
フセキエースFL	53・9		1	4								⊙	⊙		

*1:「うり類(成熟)」での登録

⊙:チオファネートメチル含有剤 ⊖:ベノミル含有剤 ⊕を使用した場合には同じ作での⊙は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く)。

*a:発病初期(但し収穫21日前まで) *b:播種後~2~3葉期まで *c:播種時

*d:定植時 *e:生育期(但し収穫21日前まで) ⊕:ピシウム菌による病害 *f:は種前種子粉衣種子重量の0.2~0.4%の登録

メロン(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日 数)	使用 回数	ア	ア	コ	ハ	ウ	ハ	オ	ネ	コ	ウ	ケ	キ	ハ	ネ
					ザ	ブ	ナ	モ	リ	ス	オ	キ	ガ	ウ	ケ	キ	ハ	ネ
					ミ	ラ	ジ	グ	リ	モ	タ	リ	ネ	リ	ハ	シ	ダ	セ
					ウ	ム	ラ	リ	メ	ン	バ	ム	ム	ハ	ム	マル	ニ	ン
					マ	シ	ミ	エ	イ	ヨ	コ	シ	幼	虫	シ	ビ	チ	ユ
					類	類	類	類	ガ	ウ	ガ	類	虫	シ	ラ	シ	類	ウ
スピノエース顆水	5		1	2	◎			◎	◎									
ダブルシューターSE	-・5		1	2	◎			◎	◎									◎
コロマイト乳	6		1	2				◎	◎									◎
バイデートL粒	1A	劇	*e	1	地揚													
			*d	1														◎
スミチオン乳	1B		1	5	◎	◎												
ダイアジノン粒5	1B		*b	2								◎			◎			
			14	4									◎					
ネマキック粒	1B		*d	1														◎
ネマトリンエース粒	1B		*d	1														◎
マラソン乳	1B		1	3			◎						◎					◎
アーデント水	3A		1	5	ミ	◎												◎
アディオソ乳	3A		1	5		◎												
サイハロン乳	3A	劇	1	1		◎												
テルスター水	3A		1	4		◎	タ											◎
マブリック水20	3A	劇	3	2		◎												◎
アクタラ顆溶	4A		1	3	ナ	◎		ト										
アクタラ粒5	4A		*c	1	ナ	◎		◎										
アドマイヤー顆水	4A	劇	*a	3	◎	◎	◎											
			*f			◎												
			*c			◎	◎	◎										
アルパリン顆溶	4A		3	2	◎	◎	◎											
スタークル顆溶	4A				◎	◎	◎											
アルパリン粒	4A		*c	1	◎	◎	◎	◎										
スタークル粒	4A		*e		◎	◎	◎											
ダントツ溶	4A		1	3	ナ	◎	◎	◎						◎				
			*f			◎	◎											
			*c		ナ	◎	◎	ト										
			*g	3		◎												
バリアード顆水	4A	劇	1	3	ナ	◎	◎		◎									
ベストガード溶	4A		7	3	ナ	◎	◎											
			*e			◎	◎											
			*c	1	ナ	◎	◎											
モスピラン顆溶	4A	劇	3	3		◎												
トランスフォームFL	4C		1	3		◎												
ディアナSC	5		1	2	◎		◎	◎	◎									
アグリメック乳	6	劇	1	3	◎		◎											◎

メ
ロ
ン

メロン(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア	ア	コ	ハ	ウ	ハ	オ	ネ	コ	ウ	ケ	キ	ハ	ネ
					ザ	ブ	ナ	モ	リ	ス	オ	キ	ガ	リ	ボ	ダ	コ	
					ミ	ラ	ジ	グ	ノ	モ	タ	リ	ネ	ム	ハ	シ	マ	セ
					ウ	ム	ラ	リ	メ	エ	バ	ム	シ	ム	ム	マル	ト	ン
					マ	シ	ミ	バ	イ		コ	シ	幼	シ	ラ	ビ	ニ	チ
					マ	シ	ミ	エ	ガ		ウ	ガ	類	虫	シ	ム	ム	ユ
					類	類	類	類	ガ		ウ	ガ	類	虫	シ	ラ	シ	ウ
アニキ乳	6		1	4			◎	◎										
アフーム乳	6		1	2	◎		◎	◎	◎									
コルト顆水	9B		1	3		◎	◎											
チェス顆水	9B		3	4		◎												
ニッソラン水	10A		3	2													◎	
バロックFL	10B		1	2													◎	
アタブロン乳	15		14	3	ナ		タ		◎									
カスケード乳	15		7	3	ナ		タ	ト										
トリガード液	17		1	3				ト										
マトリックFL	18		1	3					◎									
マイトコーネFL	20D		1	1														◎
カネマイトFL	20B		1	1														◎
サンマイトFL	21A	劇	3	2		◎	◎											◎
モベントFL	23		*h	1	灌	灌	灌											灌
				3	◎	◎	◎											
スターマイトFL	25A		1	1														◎
ダニサラバFL	25A		1	2														◎
フェニックス顆水	28		1	2					◎		◎							
ブリロッソ粒オメガ	28		*i	1	◎	◎	◎											
ブレバゾンFL 5	28			1				◎			◎							
			*h	1	灌	灌	灌											
ベリマークSC	28		*j	1		株												
				1	◎	◎	◎	◎	◎									
ヨーバルFL	28		*h	1	◎	◎	◎	◎										
				2	◎	◎	◎	◎										
ウララDF	29		1	2		◎	◎											
グレーシア乳	30		1	2	◎		◎	◎	◎	◎	◎							◎
ダニオーテFL	33		1	2														◎
ブレオFL	UN		1	2	◎			◎	◎									
サンヨール乳	-		1	4		◎												◎
アブロードエースFL	16・22A		1	3			◎											

*a:収穫3日前まで(但し露地栽培については着果後から) *b:播種時又は定植時
 *c:定植時 *d:定植前 *e:育苗期 *f:育苗期後半 *g:定植後(但し収穫前日まで)
 *h:育苗期後半~定植当日 *i:育苗期後半~定植時 *j:定植直後
 タ:タバココナジラミ類(シルバーリーフコナジラミを含む)
 ト:トマトハモグリバエ ナ:ミナミキイロアザミウマ
 ミ:ミナミキイロアザミウマ及びミカンキイロアザミウマ
 地:地床でミナミキイロアザミウマに適用
 揚:揚床でミナミキイロアザミウマに適用
 灌:灌注処理での登録 株:株元灌注

メロン(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	苗床期～生育期	<p>・次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>ジマンダイセン水和剤 400～600倍</p> <p>ダコニール1000 (FL) 700～1000倍</p> <p>ドーシヤスフロアブル 1000倍</p> <p>プロポーズ顆粒水和剤 1000倍</p> <p>ホライズンドライフロアブル 2500倍</p> <p>ライメイフロアブル 2000～4000倍</p>	
つる枯病	生育期	<p>1. 発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>ジマンダイセン水和剤 400～600倍</p> <p>スコア顆粒水和剤● 2000倍</p> <p>ダコニール1000 (FL) 1000倍</p> <p>トップジンM水和剤● 1500～2000倍</p> <p>ベルクートフロアブル 1000倍</p> <p>ペンコゼブフロアブル 500倍</p> <p>ロプラール水和剤● 1000倍</p> <p>2. 茎に発生を見たら、ただちに病斑部を削り取りトップジンMペー ストを塗布する。</p>	<p>本病菌は他のウリ科植物も侵し、発病適温の範囲が広い。</p> <p>●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。</p>
うどんこ病	生育期	<p>・発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>スコア顆粒水和剤● 2000倍</p> <p>ダコニール1000 (FL) 700倍</p> <p>トリフミン水和剤● 3000～5000倍</p> <p>パンチョTF顆粒水和剤● 2000倍</p> <p>フルピカフロアブル 2000～3000倍</p> <p>ベルクートフロアブル 1000倍</p> <p>モレスタン水和剤△ 2000～4000倍</p>	<p>●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。</p> <p>△モレスタンは高温時に薬害を生じるおそれがあるので使用をさける。</p>
つる割病	播種前	<p>1. 土壤消毒を行う(土壤消毒の項参照)。</p> <p>2. 支柱は新しいものを使用する。古い支柱を使用するときはあらかじめ消毒する。</p> <p>3. 接木栽培を行う。△</p>	<p>病原菌は数年間土中に残り、主としてメロンを侵すが、マクワウリ、シロウリも侵す。 △接木台・温室メロン： エメラルドゼム、バーネットヒルへポリット、大井 露地・ハウスメロン： カボチャ(新土佐、鉄かぶと)</p>
	生育期	<p>・発病株は早期に抜きとり焼却する。</p>	

メロン(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
モザイク病		1. アブラムシ類を駆除する。 2. シルバーマルチ(ムシコン等)によるマルチ栽培も有効である。	
アブラムシ類(ワタアブラムシ)	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000～4000倍 マブリック水和剤20 4000倍	
ミナミキイロアザミウマ	定植時	・次の薬剤を植穴又は株元に土壌混和する。 アドマイヤー1粒剤# 1～2g/株	#アザミウマ類での登録
	生育期	・生育初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 アタブロン乳剤 2000～4000倍 スピノエース顆粒水和剤# 5000倍	
ウリノメイガ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタブロン乳剤 2000倍 スピノエース顆粒水和剤 5000倍	
ウリハムシ	成虫発生時	・成虫の発生が多い時は次の薬剤を散布する。 マラソン乳剤 1000倍	山沿地域で発生が多い。
ハダニ類	生育期	・発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ダニサラバフロアブル 1000倍 マブリック水和剤20 2000倍	
ネコブセンチュウ	播種前	・床土は土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。	
	定植前	1. 作付予定地は土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 ネマキック粒剤 15～20kg/10 a ネマトリンエース粒剤 15～20kg/10 a	